

グローバル化と国際社会 A		教授 大西 一成	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの選択必修科目	科目ナンバリング	23100102

1. 授業のねらい・概要

「グローバル化と国際社会」について、まず歴史的な考察を踏まえながら、「グローバル化」が本来有する意味と課題について見直すことをねらいとした講義内容である。グローバル化が果たして何をもたらし、何を成し遂げ、その後どのような時代が予想されるのかを考える講義内容とする。前半で教科書による歴史、基本事項を学修する。その後、今日の国際社会における諸問題について取り上げる。

2. 授業の進め方

前半は教科書を中心に進め歴史的な推移を学び、その後様々な資料・論文等で進めていく。また、板書を中心とするも、ミニッツ・ペーパーも適宜準備し、意見発表、質問の準備とする。

3. 授業計画

1. イントロダクション（授業の進め方、内容の概観）	9. 今日のグローバル化の恩恵と課題
2. アジアの発展	10. 世界経済が抱え始めた課題
3. アジアの域内貿易	11. 通商問題の経済学的考察
4. ヨーロッパの時代と欧州連合（EU）	12. 自由貿易協定に見る経済理論
5. 産業革命と英国	13. 格差とポピュリズム
6. 戦後世界経済の概観	14. 国際社会における環境問題（先進国と途上国）
7. 資本主義と社会主義	15. 総括と期末試験について
8. アジアの近代化・工業化	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

予習・復習の具体的な内容については授業の進度内容に応じて適宜、授業において伝える。予習としては、教科書をまず自分で読み進めてほしい。復習は、今日の国際社会について、授業で用いた論文、資料について見直すことを望む。予習・復習に必要な時間は個人差もあるので明確には設定しないが、概ね2時間程度が目安であろう。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

期末試験の採点結果は要求に応じて個人的に公表する。学期中の試験、レポート等については、解説とともに返却したい。宿題については、次の回の授業冒頭で解説する。

6. 授業における学修の到達目標

今日の国際社会について、自分なりに課題を見出し、その課題に対し自らの視点で考え抜く力の修得を目指す。

7. 成績評価の方法・基準

授業における積極的な発言・課題提出（10%）、レポート（20%）、期末試験（70%）によって評価する。

8. テキスト・参考文献

教科書は、杉山伸也（2014）『グローバル経済史入門』（岩波新書、820円＋税）。

参考文献は、細谷雄一（2012）『国際秩序』（中公新書、880円＋税）及び栗原裕（2018）『グローバル経済』（晃洋書房、1800円＋税）、中村伸一（2012）『G20の経済学 国際協調と日本の成長戦略』（中公新書、820円＋税）

9. 受講上の留意事項

他の国際社会系や国際経済系の科目の基礎となる科目である。後期の「グローバル化と国際社会 B」も併せて履修することが望ましい。